

13. 炎症性腸疾患におけるケモカインと マトリックスメタロプロテアーゼの発現の検討

藤 田 穰

指導教授：春 間 賢

〔背景〕潰瘍性大腸炎（UC）と Crohn 病（CD）はいずれも消化管粘膜に慢性炎症を引き起こす疾患であるが臨床像は異なり，免疫学的な両疾患の相違も示唆されている．白血球遊走走化因子であるケモカインは種々の炎症性疾患の急性期に関与していることが知られているが，炎症性腸疾患における検討は少なく，さらに細胞基質分解酵素であるマトリックスメタロプロテアーゼ（MMPs）との関連について検討した報告はない．

〔目的〕UC および CD 患者の粘膜局所におけるケモカインおよび MMPs の発現を検討する．

〔方法〕UC，CD 患者および正常若年成人（NC）の回腸末端，虫垂開口部，S 状結腸，直腸の粘膜を大腸内視鏡検査施行時に採取し，PLP 固定した凍結ブロックから作製した切片を用い，フラクタルカイン（FKN）および MCP-1，MMP-3，MMP-9，MMP-12 の発現を免疫組織学的に評価した．

〔結果〕肉眼的炎症部では，CD・UC ともにすべてのケモカイン，MMPs の発現が増加していたが，FKN と MMP-12 は CD での発現が高かった．非炎症部では，UC・NC に比べ CD で MCP-1，MMP-3，MMP-9 の発現が低下していた．採取部位別に検討すると，CD の回腸末端では非炎症部にもかかわらず MMP-3 と MMP-12 が発現増加傾向にあり，虫垂開口部では逆に UC で MCP-1，MMP-3，MMP-9 の発現が増加傾向であった．

〔考察〕いずれのケモカイン，MMPs も炎症の程度に一致して発現されていたが，CD と UC では発現の程度に差が認められ，部位別の検討でも発現パターンが異なることから，両疾患での病態の相違が示された．今後はさらに症例数を増加し，m-RNA の発現についても検討する．さらに，感染性腸炎などの急性炎症性疾患での検討も行う予定である．